

住民との協働による 安間川河川整備構想の策定



浜松土木事務所工事第2課 TEL 053-458-7274

《 概要 》

- 浜松市の東部を流れる安間川の川づくりについて、地域住民の意見を集約した河川整備構想がまとめられ、5月15日に報告会を開催し、住民側から静岡県へ提案されました。
- これは、土木部が進めている「協働」事業の一環として、浜松土木事務所がNPOに、住民自らの手による構想の取りまとめを委託していたものです。
- 構想策定にあたっては、浜松NPOネットワークセンターがコーディネーターとなり、人海戦術による地元ヒアリング、演劇を用いたワークショップ、イベントに仕立てた環境調査などを経て、地域住民が参画するコンセンサス会議によって取りまとめられました。
- 河川整備構想は、5本の指針を柱としており、「生きている安間川を地域の共有財産とすること」や、「洪水は流域全体で受け持つこと」など、自らの調査で確認した湧水・希少植物の存在や浸水の体験に基づいた治水対策を提案しているのが特長です。
- 県は、この構想をもとに、平成14年度内をめどに学識経験者(流域委員会)及び浜松・浜北市の意見を聴きながら河川整備計画を策定する。

1 安間川河川整備構想の概要

- 構成： 構想策定の基本指針、問題の整理と課題の抽出、課題の実施方策
行政との協働の指針
- 基本指針
 - ▶ 安間川をふたたび地域の文化・自然資源に
 - ▶ 洪水の防止を整備構想の最優先事項に
 - ▶ 洪水防止は流域全体の責任で

- ▶ 多自然型工法で自然生態の再生を
- ▶ 行政との協働と住民の役割

■主なポイント

- ㊦ 湧水や希少植物の存在から、生きている安間川を「地域の共有財産」と位置づけ
- ㊦ 洪水防止の目標として、①床上浸水の100%解消、 日常的には床下浸水は起こさせないことを提案(安間川の改修の困難さに鑑みて、想定を超える豪雨での床下浸水は許容する。)
- ㊦ 地域の文化財や自然資源に貢献する多目的な用途を備えた遊水地が治水方式としてふさわしいと提案
- ㊦ 浸水被害を解消するためには、河川改修を受け持つ県と流域の湛水を排除する市が連携して対策にあたることの必要性を指摘
- ㊦ 流域での雨水の貯留浸透を官民一体となって進める必要を指摘
- ㊦ 天竜川の伏流水に代表される流域の水循環の特長を活かした多自然型工法の採用を要請
- ㊦ 県・市と住民の役割分担を明確にし協働するとともに、住民が継続的に安間川に関わっていくための組織の存在が不可欠であることを指摘

2 構想策定の経緯

平成13年7月6日 プロポーザル方式によるコーディネーターの選定
(浜松NPOネットワークセンターと随意契約)

7月～9月 地元ヒアリング
(大学関係者、自治会、PTA、文化史編集委員、漁協、
自然研究会、生活学校など)

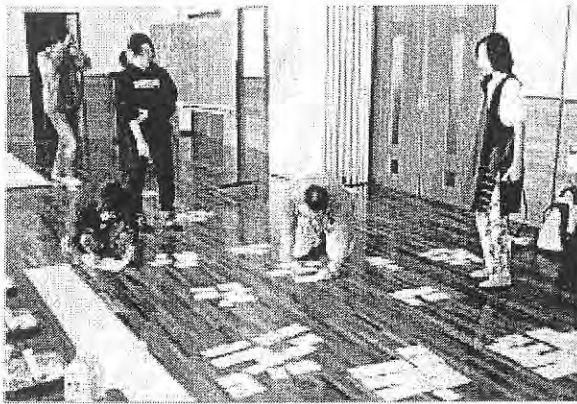
10月～12月 各種イベントによる意見収集と現地調査

- ・演劇ワークショップ .. 安間川の課題を劇に仕立て問題提起、住民間で議論
- ・地球ボールの巡回 .. 直径2mのボールに住民が自由に意見を記入
- ・写真撮影会 .. 良い景観や問題箇所の掘り起こし
- ・植物観察会&水質調査会 .. 希少植物の確認、水質の分布調査
- ・その他、水生生物調査、カヌー下り、ソーラーボート試乗会

10月～4月 コンセンサス会議による河川整備構想の検討(全12回開催)

平成14年5月15日

コンセンサス会議による浜松土木事務所への安間川河川整備構想の提案



演劇ワークショップによる論点の整理



地球ボールの巡回による意見聴取



植物調査&カヌー体験



水生生物調査



コンセンサス会議の現状分析



シアターフォーラムでのスライドショー

3 今後の予定

- ▶ 県は、この構想を踏まえ河川整備計画原案を策定する。河川整備計画原案は、地元代表者、専門家からなる流域委員会に諮るとともに、インターネットによる意見募集や意見交換会などを経て、平成14年度中をめどに安間川河川整備計画としてまとめる予定。
- ▶ 構想の反映の方法としては、計画に盛り込むための合理性を吟味し、反映できるものは反映し、そうでないものについても現段階で盛り込められない理由を整理して流域委員会に報告する。
- ▶ また、流域委員会の審議の状況に応じて適宜コンセンサス会議を開催し、流域委員会と並行してさらに意見聴取を行う。